

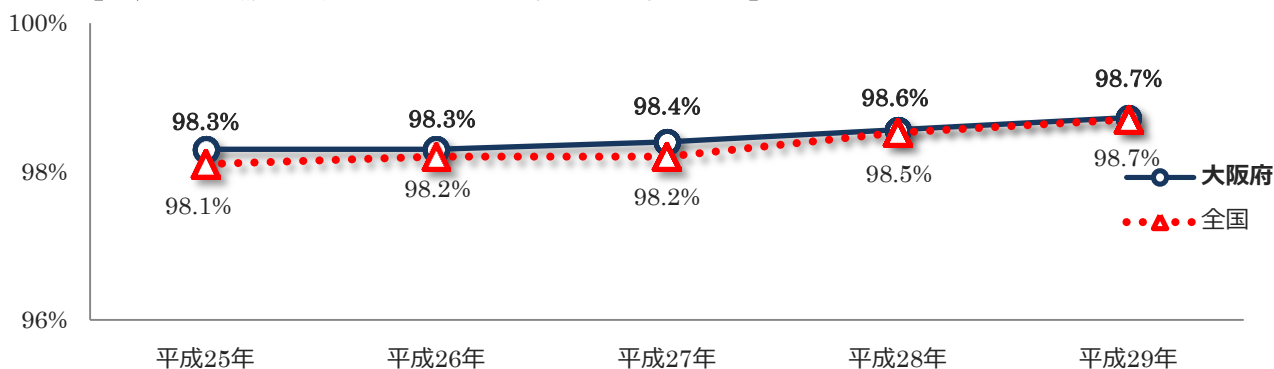
第3章 府民の歯と口の健康をめぐる現状と課題（直近値）

1 乳幼児期

- ① 1歳6か月児、3歳児、いずれの年齢においてもむし歯のない者の割合は概ね横ばいです。（図表4、図表5）
- ② むし歯のない者の割合について二次医療圏間の差は、1歳6か月児では98.5～99.0%と約0.5%、3歳児では80.7%～86.5%と約6%となっています。（参考）
- ③ 大阪府のむし歯のない者の割合は全国と比較して、1歳6か月児では概ね変わらず、3歳児では全国より低い状況となっています。（図表4、図表5）

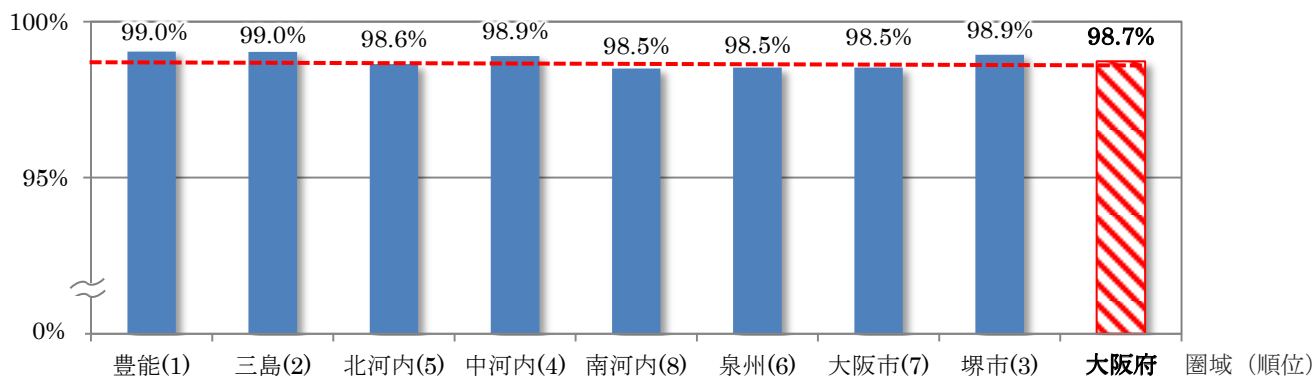
（1）1歳6か月児

【図表4：1歳6か月児におけるむし歯のない者の割合】



出典：大阪府：母子保健関係業務報告・大阪府市町村歯科口腔保健実態調査、全国：厚生労働省所管国庫補助等にかかる実施状況調べ・地域保健・健康増進事業報告（全国）

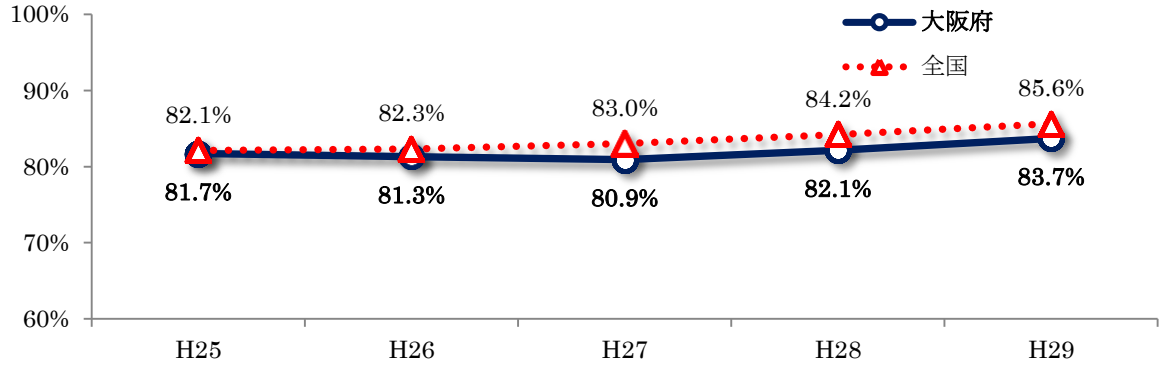
【参考：二次医療圏別1歳6か月児におけるむし歯のない者の割合（平成29年度）】



出典：母子保健関係業務報告・大阪府市町村歯科口腔保健実態調査

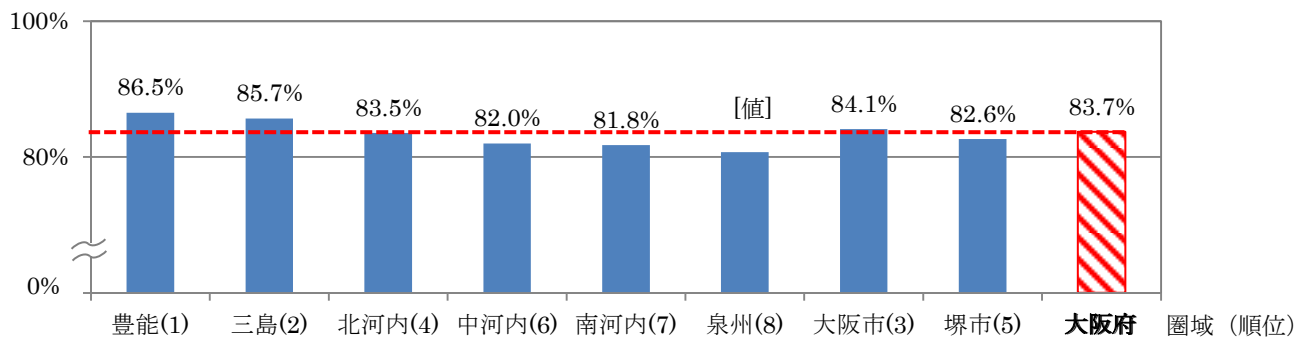
(2) 3歳児

【図表5：3歳児におけるむし歯のない者の割合】



出典：大阪府：母子保健関係業務報告・大阪府市町村歯科口腔保健実態調査、全国：厚生労働省所管国庫補助等にかかる実施状況調べ・地域保健・健康増進事業報告（全国）

【参考：二次医療圏別3歳児におけるむし歯のない者の割合（平成29年度）】



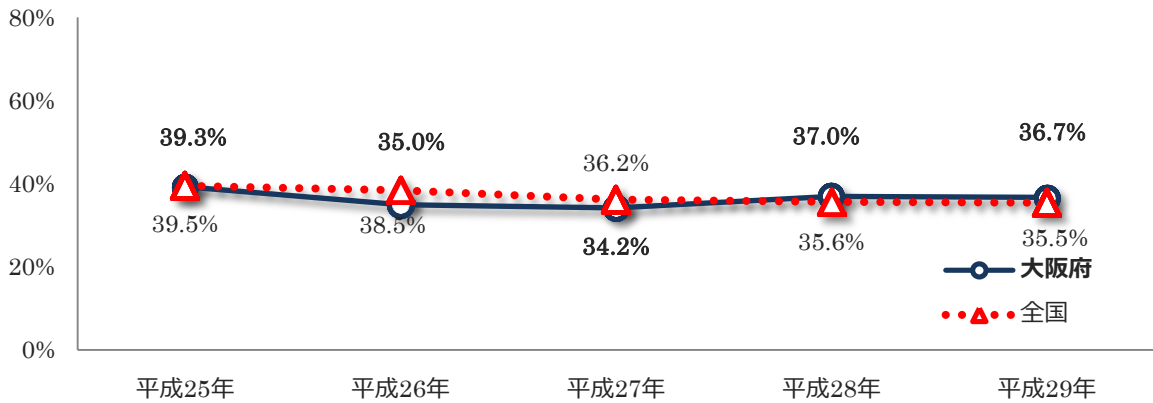
出典：母子保健関係業務報告・大阪府市町村歯科口腔保健実態調査

2 学齡期

- ①小学校（9歳）、高校生（16歳）、ではむし歯のある者の割合は減少傾向にあり、幼稚園（5歳）、中学生（12歳）、では概ね横ばいです。
（図表6、図表7、図表8-1、図表9）
- ②高校生（16歳）では、およそ半数の生徒にむし歯（処置が完了しているものを含む）が認められます。（図表9）

（1）幼稚園児（5歳）

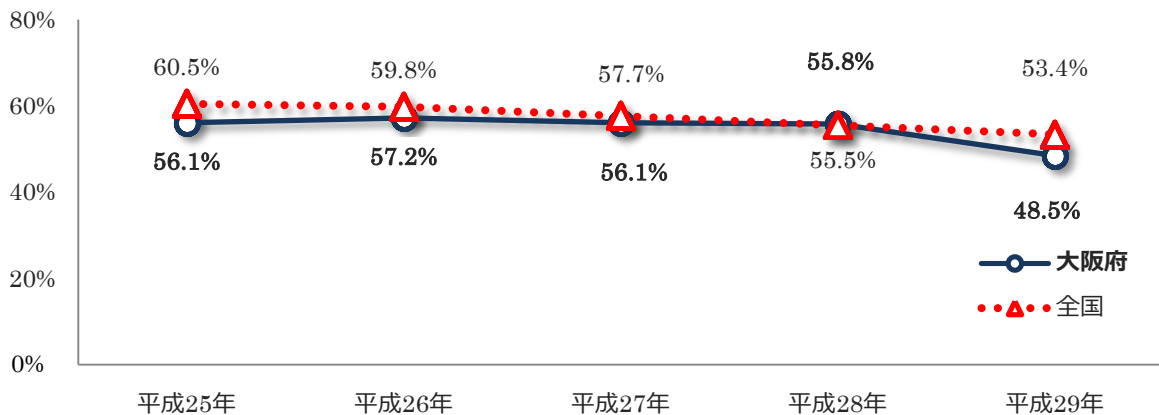
【図表6：5歳におけるむし歯を有する者（処置完了者を含む）の割合】



出典：学校保健統計調査

（2）小学生（9歳）

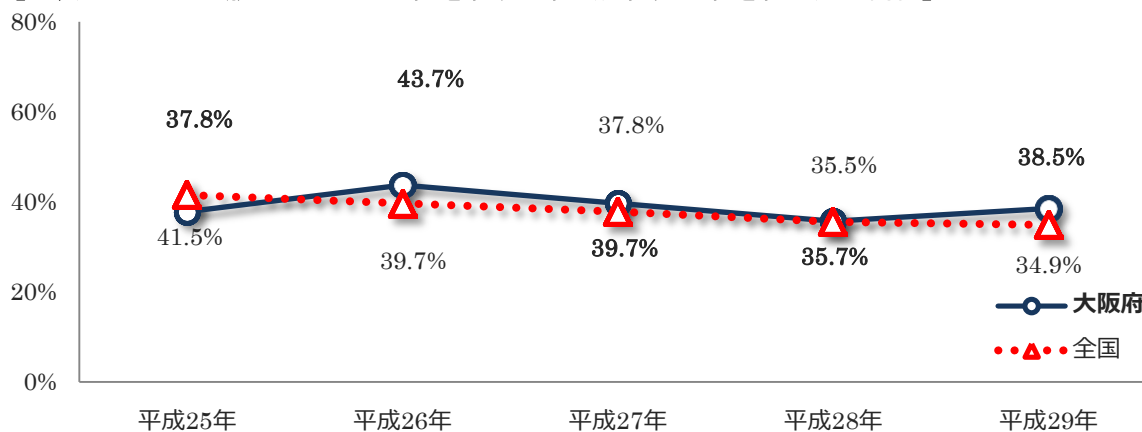
【図表7：9歳におけるむし歯を有する者（処置完了者を含む）の割合】



出典：学校保健統計調査

(3) 中学生 (12 歳)

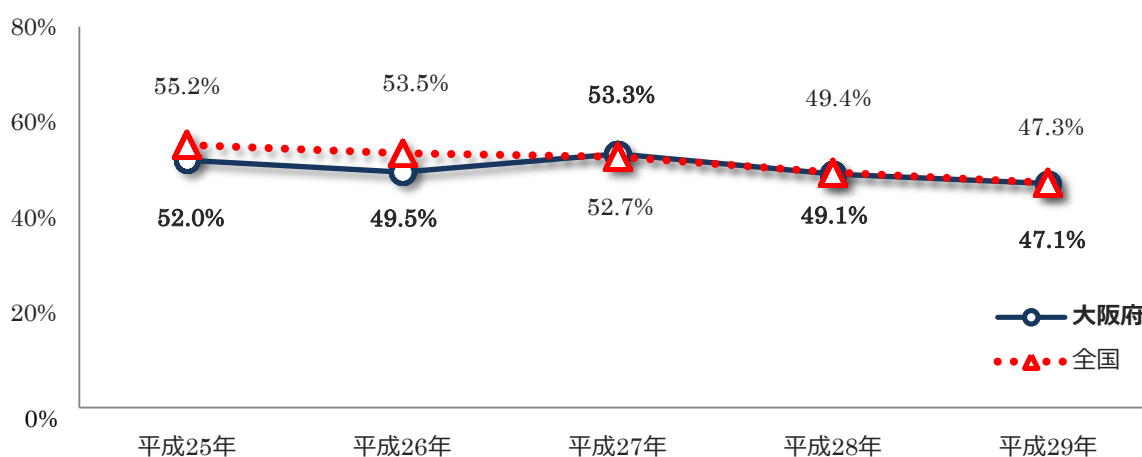
【図表 8-1 : 12 歳におけるむし歯を有する者 (処置完了者を含む) の割合】



出典：学校保健統計調査

(4) 高校生 (16 歳)

【図表 9 : 16 歳におけるむし歯を有する者 (処置完了者を含む) の割合】



出典：学校保健統計調査

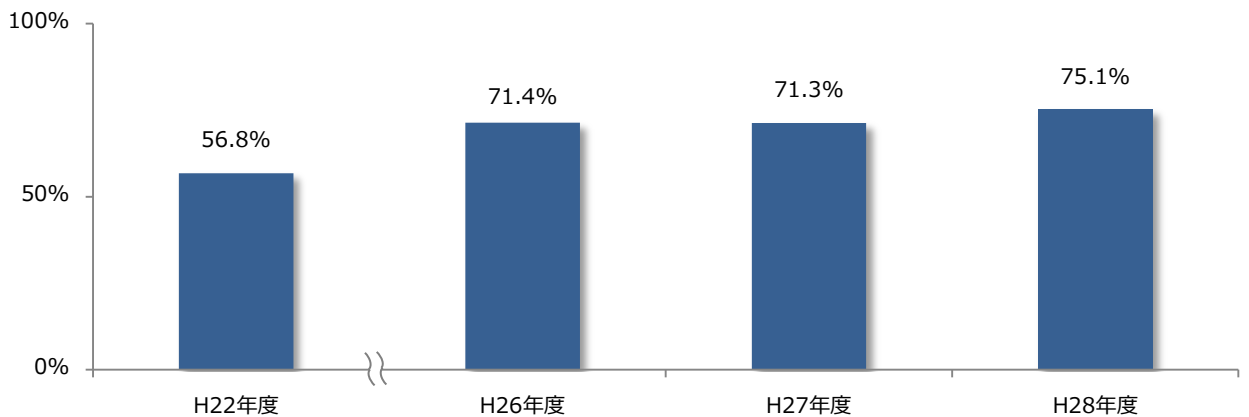
3 成人期・高齢期

- ① 6024 達成者の割合は増加傾向にあり、8020 達成者の割合は概ね横ばいです。
(図表 10)、(図表 11)
- ② 40 歳、60 歳ともむし歯治療が必要な者の割合は大阪府全体では減少傾向です。
(図表 14)
- ③ 40 歳、60 歳とも歯周治療が必要な者の割合は大阪府全体では増加傾向です。
(図表 17)

(1) 歯の保有状況

【図表 10：自分の歯を 24 本以上有する者の割合】

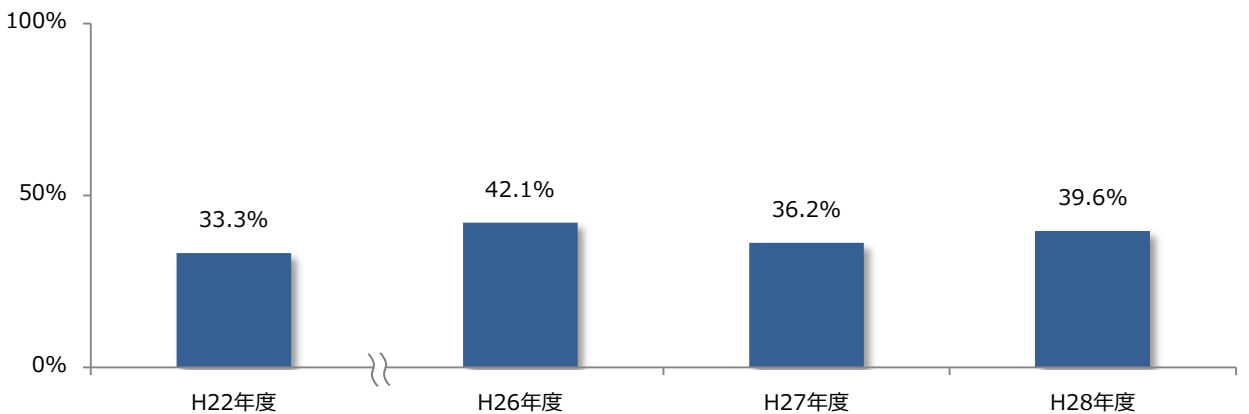
▼60 歳



出典：国民健康・栄養調査（大阪府集計）（平成 22 年（平成 21～23 年度調査）、平成 26 年（平成 25～27 年度調査）、平成 27 年（平成 26～28 年度調査）、平成 28 年（平成 27～29 年度調査））

【図表 11：自分の歯を 20 本以上有する者の割合】

▼80 歳



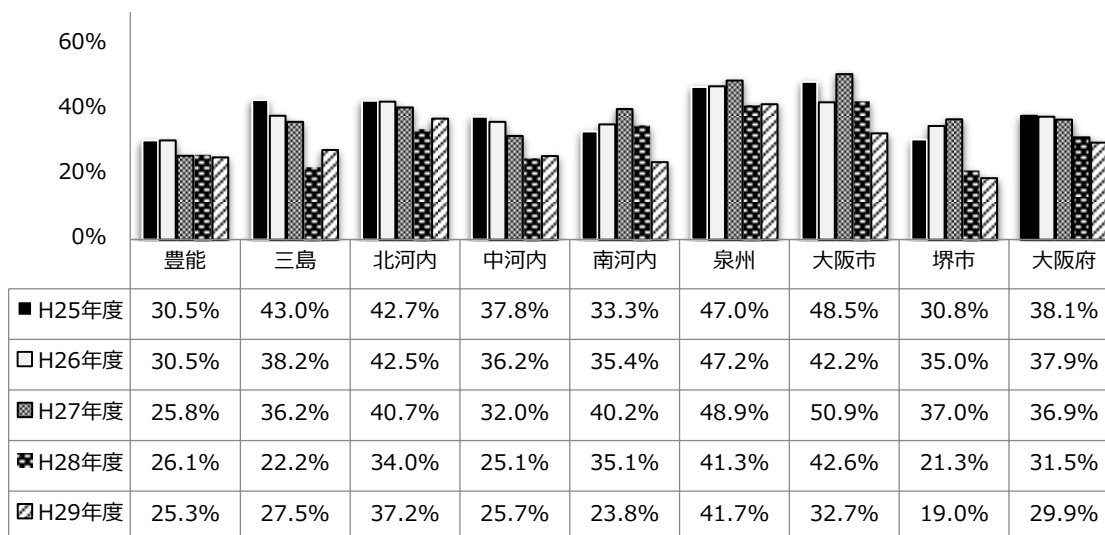
出典：国民健康・栄養調査（大阪府集計）（平成 22 年（平成 21～23 年度調査）、平成 26 年（平成 25～27 年度調査）、平成 27 年（平成 26～28 年度調査）、平成 28 年（平成 27～29 年度調査））

(2) 咀嚼良好者の割合 (※ 資料無し)

(3) むし歯の治療が必要な者の割合

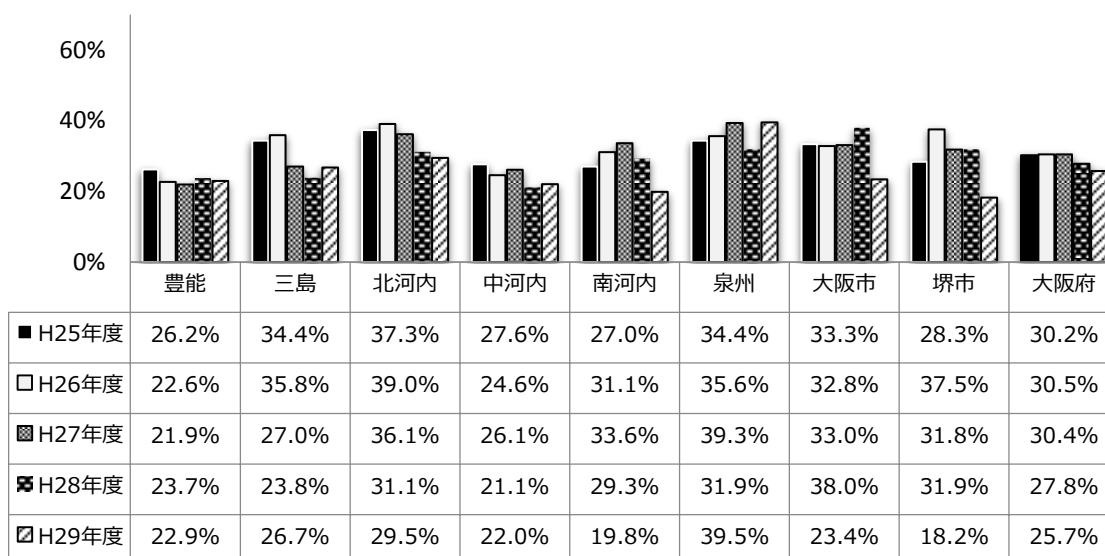
【図表 14：むし歯治療が必要な者の割合】

【参考：二次医療圏別むし歯治療が必要な者の割合（40歳）】



出典：大阪府市町村歯科口腔保健実態調査

【参考：二次医療圏別むし歯治療が必要な者の割合（60歳）】



出典：大阪府市町村歯科口腔保健実態調査

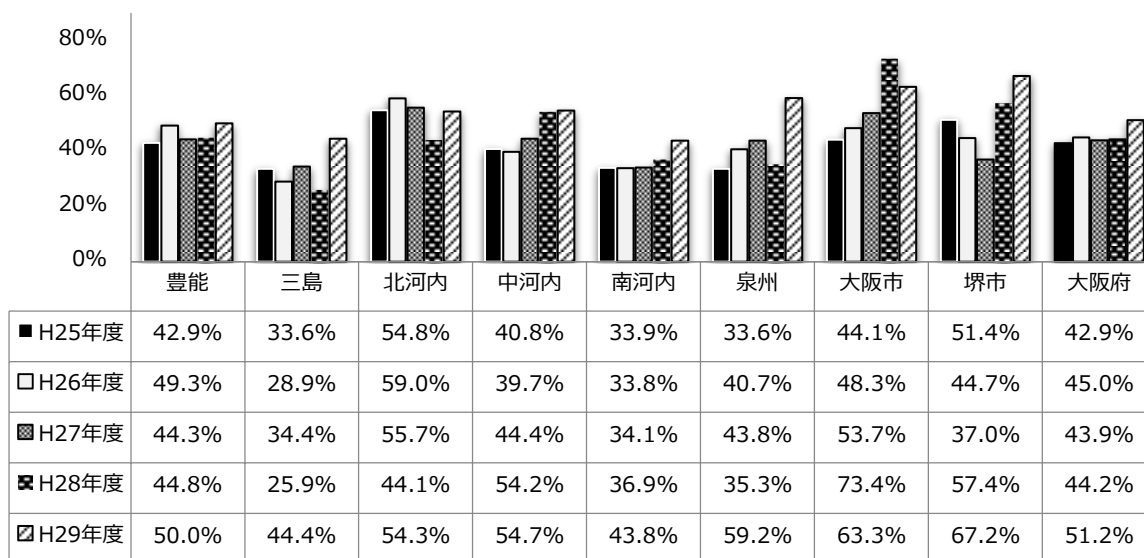
(4) 歯周病の自覚症状のある者の割合

①歯周病の自覚症状のある者の割合（※ 資料無し）

②歯周病の治療が必要な者の割合

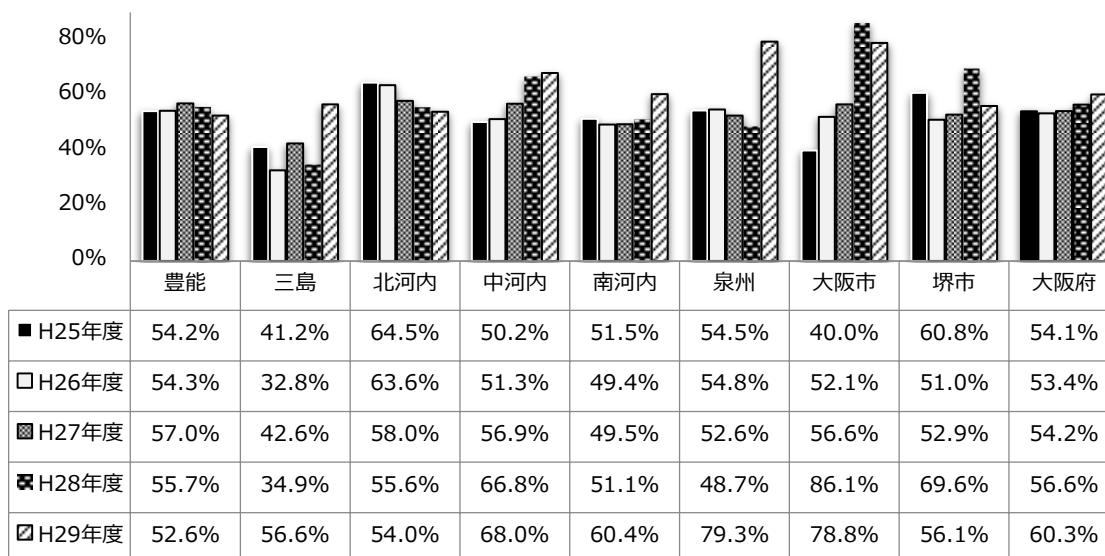
【図表 17：歯周病の治療が必要な者の割合】

【参考：二次医療圏別歯周病の治療が必要な者の割合（40歳）】



出典：大阪府市町村歯科口腔保健実態調査

【参考：二次医療圏別歯周病の治療が必要な者の割合（60歳）】



出典：大阪府市町村歯科口腔保健実態調査